

栃身連

第152号

発行所

一般財団法人
栃木県身体障害者福祉会連合会
宇都宮市若草1丁目10番6号
とちぎ福祉プラザ2階

発行人 麦倉仁巳
TEL 028-624-8408
FAX 028-624-8418

新年のごあいさつ

一般財団法人 栃木県身体障害者福祉会連合会

会長 麦倉仁巳



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

栃身連は、県内の福祉会を構成団体として障害者の福祉の向上を目指して活動しておりますが、常日頃から、会員はじめ関係者の皆様には当会の各種事業にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症も落ち着きを取り戻し、障害者文化祭（カルフルとちぎ2023こころのつどい）は4年ぶりに従前に近い規模での開催をすることができ、「栃木県身体障害者福祉のつどい」も参加人数の制限なしでの開催となりました。

また、本県で開催された全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」のレガシーとして、選手とボランティア、指導者をつなぐ「とちぎパラスポーツ推進センター」が設置されたことは多くの県民にパラスポーツを通じて夢と感動を与え続けることと期待しております。

本年4月からは、改正障害者差別解消法の施行に伴い、障害者やその家族からの申し出により民間事業者も合理的配慮が義務化されることとなります。

合理的配慮を享受するには、私たち障害者も自らの障害を相手に理解していただき、相互理解のうえに住みやすい共生社会が実現するとの自覚が必要となります。

新しい年を迎え、役員一同福祉の向上のための事業や情報発信を行っていく所存ですので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第28回 栃木県身体障害者福祉のつどい

令和5年12月1日
とちぎ福祉プラザ

県内各市町の身障福祉会の皆様にご参集いただき、第28回栃木県身体障害者福祉のつどいを開催しました。

第一部式典では、ご来賓の栃木県保健福祉部障害福祉課課長・上野治久様から福田富一知事のご祝辞を代読いただき、社会福祉法人栃木県社会福祉協議会会長・関根房三様からご祝辞を頂戴しました。



そして、宣言案が採択され、式典を終了しました。

宣言

本日、「とちぎ福祉プラザ」において、県内各市町の身体障害者福祉会の皆様の参加をいただき、「第28回栃木県身体障害者福祉のつどい」を開催することができました。

令和3年に改正された「障害者差別解消法」は、令和6年4月1日に施行されることにより、事業者にも合理的配慮の提供が義務化されます。

社会的バリアを取り除くために申し出ることや事業者等と話し合っ、共に対応策を検討すること等、障害のある私たち一人ひとりが意識をもって啓発することが求められます。

ここに集う私たちは、障害者の自立と社会参加を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指して行動することを誓い（い）ます。

第二部は、特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会会長の駒崎茂様を講師に迎え、「私の人生を変えてくれたこと」と題して、画像や動画を交えながら講演いただきました。
次頁に概要を紹介させていただきます。

講演

「私の人生を変えてくれたこと」

講師 駒崎 茂氏

平成15年7月、私は両脚を失った。

昭和60年に結婚し3人の子供に恵まれた。飲食店を経営していた41歳の時、バイクを運転中のタクシーとの衝突事故だった。

自治医大に入院、現実を受け入れられずほとんど物を食べなかった。当時64キロだった体重は49キロにまで落ちていた。

そのような時、切断理由はそれぞれ異なっていたが、同時期に入院中だった3人の仲間のおかげで学びがあり、そして勇気をもらった。

その後、最新の義足をつければ歩けるようになると思いリハビリを始めたが想像以上に困難なことだった。主治医の先生からは、両脚を切断した人で、初めて義足で歩けた人は一人もいないと言われていた。

『なぜ頑張れたのか』

事故に遭ったのは、長男が高校2年生の時に陸上競技でインターハイに出場する1週間前のことだった。応援に行く準備も進んでいた。長男は病院でこう言ってくれた。「親父、来年もインターハイに連れて行くよ」。この言葉を励みに何とか

頑張ろうと思った。当時の競技場はまだまだバリアフリーではなかったので、車椅子ではなく義足をはいてでも応援に行きたいと思った。そして一年後、鳥根県で開催されたインターハイ会場まで義足で応援に行くことができた。

その後、リハビリ目的で始めたのが競技スポーツの水泳だった。その頃は栃木県には障害者の水泳クラブチームがなく、茨城県にあるクラブチームに入ることにした。

平成18年、兵庫県で開催された全国障害者スポーツ大会に初めて出場した。50メートルのルールと平泳ぎの2種目にエントリーしメダルを獲得することができた。



平成23年、水泳で銀メダルを獲得した仲間がローイング(ボート競技)に誘ってくれた。その競技の楽しさが、アジア大会やリオパラリンピックの世界につながっていった。

平成21年から茨城県古河市の医療機関でソーシャルワーカーとして12年間勤務、パラリンピック代表に決まっていたからは、院長が休みを取りやすいようにと「推進室」という新しい職場を作ってくれた。

障害というとならないことに目を向けがちだが、障害者スポーツを通じて自分の限界に挑戦できた。様々な障害をもつ人と出会うことで自分の障害に向きあうことができた。お互いに切磋琢磨し励まし合うことができた。いろいろな可能性が広がったと思っている。両脚を失ったときには、今の自分を想像もできなかった。

「夢はかなう」

そのためには、ひとつひとつの課題を確実にクリアしていくこと。私の最初の目標は「義足で歩きたい」ということだった。できないことも多かったが自分で限界を決めたくない。こういう自分になりたいと想像し、最後まで諦めずに次のステップに進むことができた。

挫折もあったけれど、救ってくれたたくさんの人たちとの出会いと支えがあり今の自分がある。出会いには絶対に何か意味がある。これからも目標をもって夢をかなえていきたいと思う。

特別全国障害者スポーツ大会
かごしま大会に参加して

宇都宮市
齋藤 容子

今年の全国大会は鹿児島県で開催されました。

目の前に桜島を望む白波スタジアムから、「燃ゆる感動かごしま大会」の開会式が始まり、「熱い鼓動風は南から」のスローガンの通り、鹿児島らしさが感じられてとても素晴らしいかったです。

生後10か月の頃、小児麻痺のため足が変形してしまいましたが、中学3年生の時に手術をしてからは経過がよく、就職してその後、結婚。スポーツができない訳ではありませんでしたが、そういった環境もなく機会がありませんでした。

61歳を過ぎた頃の私は、夫の介護を終えてひとり暮らしになり家に籠りがちになっていました。そんな時に友人が「障害のある人もない人も一緒に卓球を練習している会があるので来てみない？」と誘ってくれました。

相手にまともな球も打ち返せない初心者の状態から練習を続けて行きました。少しずつ上達し、楽しんでいくうちに卓球をする事が生きがいと思えるようになっていきました。

県内や関東地区の大会に参加するようになって、いっこうに勝てなくて、試合より毎回の練習の方が好きで楽しみ。何より皆と一緒に掛けられる喜びがありました。

そんな私が全国の大会に選手として出場することになるとは思ってもみませんでした。試合に勝てない自分が出場しても良いのか？と迷っていると、「出場できる機会は滅多にないのだから、勝負にこだわらず楽しんでやれば良い」と仲間からの応援と、いつも一緒に練習している人達も出場することになったので安心できました。

『出場選手の目標は優勝!!』いつもの確なアドバイスをしてくださるコーチに伝えて頑張る選手。また、ボランティアで栃木県卓球選手団のお世話をしてくれた鹿児島大学的女子学生4人組の力強い応援は選手への励みになりました。

優勝を逃して悔しく落ち込んでい

る選手の気持ちを心配してくださるコーチや、車いす介助員の方など多くの支えがありました。

ところであなたの結果は？と問われると、胸を張って「銀メダル」と言えない自分です。今までなら「勝てなかったよ」で終わりでしたが、コーチからのアドバイスを身に付けて「試合に勝ちたい」と思うようになりました。試合に臨む時、勝つんだという強い意志で戦うこと、試合に慣れて度胸をつけること、かごしま大会に出場して得た今後の課題です。

私達は現在、週に一度「障害者スポーツセンター」や「サン・アビリティーズ」をお借りして練習をしています。

今までスポーツをする機会がなかった皆さん、一歩踏み出して外に出てみませんか！

私達と一緒に、楽しみながら練習をしてみましよう！

※障害者スポーツセンター

宇都宮市若草1-10-6

※サン・アビリティーズ

宇都宮市屋板町251-1

令和2年に鹿児島県で開催される予定であった全国障害者スポーツ大会は新型コロナウイルスの影響により延期となり、令和5年特別大会として、10月28日から30日の3日間にわたり、鹿児島市・指宿市等の各競技会場において開催されました。栃木県からは、選手59名、役員55名の計114名の選手団が派遣され、結果は、金メダル22個、銀メダル18個、銅メダル17個、合計57個のメダルを獲得する活躍でした。



J Rジパング倶楽部特別会員

身体障害者手帳では割引にならないJRの特急券などが、2～3割引となるミドルからシニアの方を対象とした割引制度です。

「片道・往復・連続」で201km以上ご利用される場合、特急券・グリーン券・指定券などが割引になります。

ただし、新幹線「のぞみ」「みずほ」など一部割引とならない切符があります。また、繁忙時期は割引にならないためご注意ください。

第1種身体障害者の方で、介助者が同行される場合は、介助者も同様の割引となります。

お申込みをいただいてから、お手元にジパング倶楽部手帳が届くまで約3～4週間程度かかりますので、ご旅行の際は余裕をもってお申し込みください。

加入資格	身体障害者手帳をお持ちの方 男性60歳以上、女性55歳以上
年会費	1,400円
新規申込	初回3回まで2割引 4回目以降は3割引 入会申込書と身体障害者手帳のコピーは郵送、年会費は銀行振込でお願いしています。
更新申込	継続の方は引き続き3割引 お手続きは年会費のお振込のみで完了です。



詳細は
下記連絡先まで
お問合せください

◆◆問合せ先◆◆

一般財団法人 栃木県身体障害者福祉会連合会

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ内
(TEL)028-624-8408 (FAX)028-624-8418
(E-mail)toti-sin@juno.ocn.ne.jp (URL)http://www.tochishinren.jp
《休業日：日曜日・月曜日・祝日》

この機関紙は
赤い羽根共同募金配分金
により発行しています



令和6年度主な行事予定

行事	開催日程
日本身体障害者福祉大会 石川県産業展示館4号館	5月22日(水)
栃木県障害者スポーツ大会 個人競技 団体競技	5月下旬 9月下旬
栃木県民福祉のつどい 宇都宮市	8月下旬
全国障害者スポーツ大会 佐賀県	10月26日(土) ～28日(月)
栃木県障害者文化祭 宇都宮市	11月上旬
栃木県身体障害者福祉のつどい とちぎ福祉プラザ	12月3日(火)

※詳細や日程が未確定の行事については
改めてお知らせします。

栃身連賛助会員

栃身連の活動を支えてくださる賛助会員を募集
しています。ご支援をお願いできれば幸いです。

個人会員年会費

- 2,400円 (各市町身体障害者福祉会員)
- 3,000円 (福祉会未入会の方)

団体会員年会費

- 10,000円



令和5年度賛助会員の皆様
ご支援ありがとうございます

個人会員 51名

団体会員 8 団体

- 藤崎印刷株式会社 様
- 有限会社泉観光社 様
- 株式会社山一 様
- 浅間商事株式会社 様
- サンクレール株式会社 様
- 宇都宮市肢体障害者福祉会 様
- 栃木市身体障害者福祉会連合会 様
- 大田原市身体障害者福祉会 様